

ガッコ親父の

昔むかし、ある山に凶暴で何本もの首を持つ大蛇（おろち）が住んでいて、昼間は寝ていて静かだったが、陽が落ちる頃になると頻りに村に現れた。大蛇は村の若い娘をさらっていくという悪事を繰り返しては、住人たちを恐怖に陥れていたのだった。これまで、気持ちの悪い大きな抜け殻を見たという村人が何人も現れては、村の空気をさらに暗くした。

村長は去年、ついに自分の美しい娘まで拐われてしまったので、もう我慢ならんと、帝に大蛇退治と娘の救出を頼んでいた。早速、鬼神もおののくといわれている、源（みなもと）松次郎という侍が征伐に選ばれて派遣されるようになった。

源松次郎は話を聞いた上で、そいつは「八岐大蛇（ヤマタノオロチ）」に違いないと判断した。八つの首を持つ大蛇なので、それならと八人の手下を連れていくことにした。同行したのは鬼に強くて有名な渡辺綱や、小さい頃は金太郎と呼ばれていた坂田公時ら八人の精鋭たちだった。大蛇は村に現れては、若い娘と一緒に酒も略奪して行ったというから、きつと酒好きに違いないと思ひ、武器と共にたくさんの酒も準備した。

奄美黒糖焼酎

大蛇もそんな情報を村長の家の屋根に住まわせている手下の青大将から仕入れていた。「俺を征伐する？」とかバカな話が持ち上がっているらしいが、止めとけ、止めとけ。そんな俺の強大な力を知らん奴の戯言や」とあまり真剣に受け止めなかった。今年には巳年やからといって、俺を人集めのプロモーションに利用しようとしている奴も多いからなど、不敵な笑みを見せた。

その夜、大蛇は村の娘を拐いに行くことにした。今回は村に大蛇征伐と称して源松次郎とかいう男も居るらしいし、軽く可愛がってやるうじやないかと、ニヤリとしながら出かけた。すると、待ち構えていたのは宴会の準備を整えていた、武器を手に入れない源松次郎の一行だった。

「これはこれは、大蛇殿。お待ち申していました。私どもは貴方様と初対面ですので、これから懇意にしていたらどうと、ささやかですが宴を用意させていただきました」と源松次郎は笑顔でもてなされた。大蛇はそんな言葉には騙されなぞと睨みながらも、用意された酒が美味しそうだったので、ついつい手を出してしまった。大蛇は慎重に飲み始めたが、酒が美味すぎて度を越してしまったのだった。「ふふふ、大蛇殿。この酒は人間界で人気の美味しい酒です。思った通りに飲みすぎてしまったようですね、残念ですが」と言った後、「大蛇殿は未成年ということはないでしょうし、飲酒運転もしないでしょうが、

やっぱり『お酒は適量を』という大切なことを守れなかったようですね。早速、同行の八人に命じてふらつく八つの首を縛ってしまった。

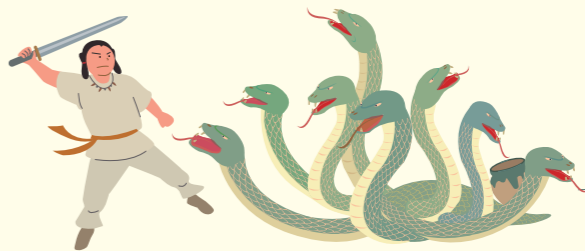
縛られた大蛇は悔し紛れに「それにしても美味しい酒だったな。なんとこの銘柄か最後に知りたいたのだが。そうか『しまっちゅ伝蔵』か」と観念したように目を閉じた。源松次郎たちは大蛇のいなくなった山へ、娘達の救出に向かった。

しまっちゅ伝蔵
でん ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



the most beautiful
villages in japan
喜界町
鹿児島県

「大蛇(おろち)」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。